

印刷技術懇談会 2026年3月13日(第542回)
『ローカル・ゼブラ企業のためのAI実践活用法』
並木 将央氏 株式会社ロードフロンティア代表

- 日時：3月13日(金) 18:00~20:00 (参加者：25名(内 Zoom 6名))
- 場所：(株)モトヤ 東京本社 6F (東京都中央区八丁堀)
- 講演要旨

今回の講師の並木氏からは、時折、聴講者へ「問いかけ」があり、その都度、我々は「少し考え」、その後、並木氏の解説を聞くという双方向のやり取りをしながら、テンポ良く話が進むというスタイルだった。例えば、「日本は何で稼いでいる国か？」という問いに、筆者は、かつて中学校で習った「加工貿易立国」を思い出したが、並木氏が提示した国際収支のデータを眺めながら、現在の日本は「金融」で稼いでいる国だという事を理解したのである。

さて、講演の骨子は以下である。

- ① 日本で今何が起きているのか
- ② DXが求められている理由
- ③ AIをどう使っていくか
- ④ なぜ、ローカル・ゼブラ企業か
- ⑤ まとめ



上記の①で触れた日本の人口を歴史的に眺めた P.4 上部のグラフは実に興味深い。鎌倉時代(人口 600 万人)まで遡って、日本の人口がどのように推移してきたかを俯瞰できる。そして明治維新から戦後、高度経済成長期にかけて急激(爆発的)に増加し、現在ではすでにピークを過ぎて人口減少の局面に入っている。続けて示された「消滅可能性自治体マップ」(朝日新聞社)のサイトは、予測とはいえ、我々に人口減少が生み出す強烈なインパクトを実感させる。これが日本の現実である。

②では、上述の人口減少の局面で、生産活動における付加価値を上げていくためには、各企業はDXを強力に推進する必要性があり、政府(経済産業省)のDXの推進政策の背景にある強い問題意識を感じ取ることができる。

③では、AIを思考の「外部脳」として使うという話から始まって、様々なAIツールの紹介があり、AIそれぞれの得意分野を活用すること、AIを重ね合わせて利用するという考え方が示された。さらに3つのAIキーワード(「エッジAI」「AIエージェント」「エージェントAI」)についての言及があった。Googleが開発したAI搭載のツール NotebookLM の解説とデモでは、印刷技術懇談会を例にとり、そのHPにある情報をベースに、「活動概要」や「動画解説」、さらには「マインドマップ」までが直ちに整った形で生成された。AIのパワーとは別に、組織の内部からは見落とすような記述もあり新鮮な印象もあった。

④は、「ローカル・ゼブラ企業」についての説明で、ゼブラの縞模様から、白が「地域貢献」黒が「経済活動」を指し、この2つを共に行う企業で、人口減少によって税収が減り住民サービスに限界が見えてきた行政に代わって、地域の課題を解決する役割を担いながら、収益を確保し成長していく新しい企業像である。重要なことは「行政に頼られる企業」「地域で一番の存在感を持つ企業」を目指すことだと並木氏は強調していた。そして印刷会社は地域の多様な業種の「顧客名簿」を保有しているという優位性を生かして、商流を握ることができ、ローカル・ゼブラ企業として成長できる可能性が指摘された。我々はAIを含むデジタルの力の活用しながら、展開していく事業の姿をあれこれ考えてみたいものである。

Q&Aの中では、4つの助(自助・公助・共助・互助)と、地域共同体、「AIと教育」などについて並木氏は熱く語り、人間、地域、コミュニティに関する氏の考え方の一端を知ることができた。

講演全体を通して、並木氏は「知った者だけが幸せになれる」と2度ほど口にしたが、これは今回の「キーメッセージ」かも知れない。混沌としている世界情勢と、縮んでいく日本の中で、各々はその含意について考えてみたらどうであろうか。

.....以下、メモ.....

■ 並木氏のプロフィール

- ✓ 1975 年生まれ。
- ✓ 中小企業診断士、ITコーディネータ、電気工学修士、経営管理修士(MBA)。
- ✓ 東京理科大学大学院工学研究科電気工学専攻博士前期課程修了
- ✓ 日本テキサス・インスツルメンツ株式会社つくば研究開発センター研究員勤務を経て、法政大学経営大学院イノベーション・マネジメント研究科修士課程修了。
- ✓ 株式会社ロードフロンティアを設立し、現在に至る。

<https://road-frontier.com/>

- ✓ 成熟社会経営コンサルタントとして、業種、業態を問わない戦略構築が幅広い顧客の支持を得ている。
- ✓ 経営コンサルティングを中心にセミナーや大学での講演など幅広く行っている。
- ✓ 2014 年「The Japan Times」の「次世代のアジアの経営者 100 人 2014」に選出される。



日本で今、何が起きているのか

■ 日本の現状

- ✓ 日本はいったい何で稼いでいるのか？（外貨をいかに獲得しているのか？）
 - 「ものづくり」でも「サービス」でも稼いでいない。
 - 金融で稼いでいる国になっている。
- ◇ 貿易収支：赤字
 - 「日本は加工貿易立国」ではない。
- ◇ サービス収支：赤字
 - インバウンドの市場規模：8.1 兆円（2025 年）
 - デジタル（ソフトウェア、データ）による赤字
 - － 汎用 OS（Windows、Android、iOS）
 - － YouTube、Netflix、Amazon
 - － （経産省のレポート）2035 年には、デジタル赤字が最大 45 兆円まで拡大するだろうという予測あり。現在黒字の第一次所得収支を食いつぶし、経常収支が赤字になる恐れあり。
- ◇ 第一次所得収支：黒字
 - NISA、iDECO での国の優遇策（たんす預金を吐き出させる策）
 - － 海外での運用収益
 - 海外の工場での利益の配当金

日本の現状

日本の経常収支は第一次所得収支のおかげであり、貿易・サービス収支は赤字

令和6年度中 国際収支状況（速報）の概要

I 経常収支

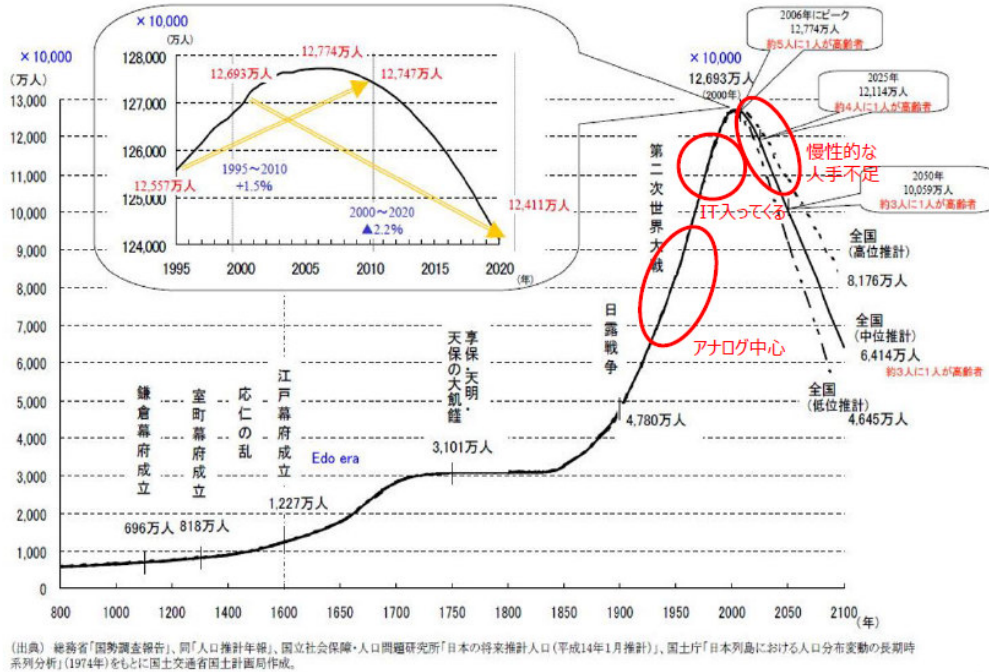
	金額	前年度比
貿易・サービス収支	▲6兆6,247億円	+2,926億円 (赤字幅縮小)
貿易収支	▲4兆0,480億円	▲3,614億円 (赤字幅拡大)
輸出	106兆2,390億円	+4兆1,697億円 (+4.1%増加)
輸入	110兆2,870億円	+4兆5,311億円 (+4.3%増加)
サービス収支	▲2兆5,767億円	+6,540億円 (赤字幅縮小)
第一次所得収支	41兆7,114億円	+4兆3,726億円 (黒字幅拡大)
第二次所得収支	▲4兆7,095億円	▲4,545億円 (赤字幅拡大)
経常収支	30兆3,771億円	+4兆2,107億円 (黒字幅拡大)

■ そもそも DX はなぜ必要なのか？

- ✓ 人口減少 ⇒ 労働力の減少
- ✓ 成長時代から「成熟時代」に時代が切り替わった。
- ✓ 「人口減少が起きる時代の経営の仕方」が分からないと沈んでしまう。
- ✓ 人がいなくても付加価値を上げていかなければならない。

そもそもDXはなぜ必要なのか？

人口減少が起こると、労働者も減っていきます。従来のやり方では人手不足は永遠に解決できません。人がいなくても付加価値を上げていかなければなりません



■ 消滅可能性自治体マップ

- ✓ 朝日新聞 <https://www.asahi.com/special/population2024/>
 - 地図で見る
 - リストで見る
- ✓ 人口減少と治安問題
 - 人口に応じて警察官の配置数が決まるので、人口が減少すると治安劣化の懸念
 - 犯罪の件数の増加と検挙率の低下の懸念



DX が求められる理由

■ デジタル・トランスフォーメーションとは

- ✓ ITの活用を通じて、新しいビジネスモデルを確立すること
(業務の「省力化」「効率化」の事ではない)

■ デジタル化の3段階

- ✓ デジタイゼーション (1990年～)
 - 「特定業務」のデジタル化 (例: 経理の仕事を紙に置き換える)
 - AIを使って、業務を楽にすることは「デジタイゼーション」のレベル



- ✓ デジタライゼーション (1995年～)
 - 各組織に横串を通して、基幹システムを導入して業務を効率化すること。



- ✓ デジタル・トランスフォーメーション (2008年～)
 - デジタイゼーション、デジタライゼーションとは全く異なる。
 - 全く新しいビジネスモデルの構築
 - 製品・サービスのデジタル化

デジタル化への3段階

DXと言われているもの、デジタル化と区別ついてない中小企業は多いです

デジタル化への3段階



デジタイゼーション

デジタライゼーション

デジタル
トランスフォーメーション

“特定”業務のデジタル化

業務フロー・プロセスのデジタル化

製品・サービスのデジタル化

- ・ ツールを使用して特定の業務をデジタル化
- ・ アナログの情報をデジタル化し、データを蓄積できる環境を整える

- ・ 組織全体の業務フロー・プロセスを最適化
- ・ デジタルツールを使用して自組織の生産性を高めるノウハウを蓄える

- ・ ビジネスモデル自体をデジタルなものに変革
- ・ デジタル中心の事業や商材を保有する

■ 「攻めのDX」と「守りのDX」

✓ 「攻めのDX」

➤ 顧客志向

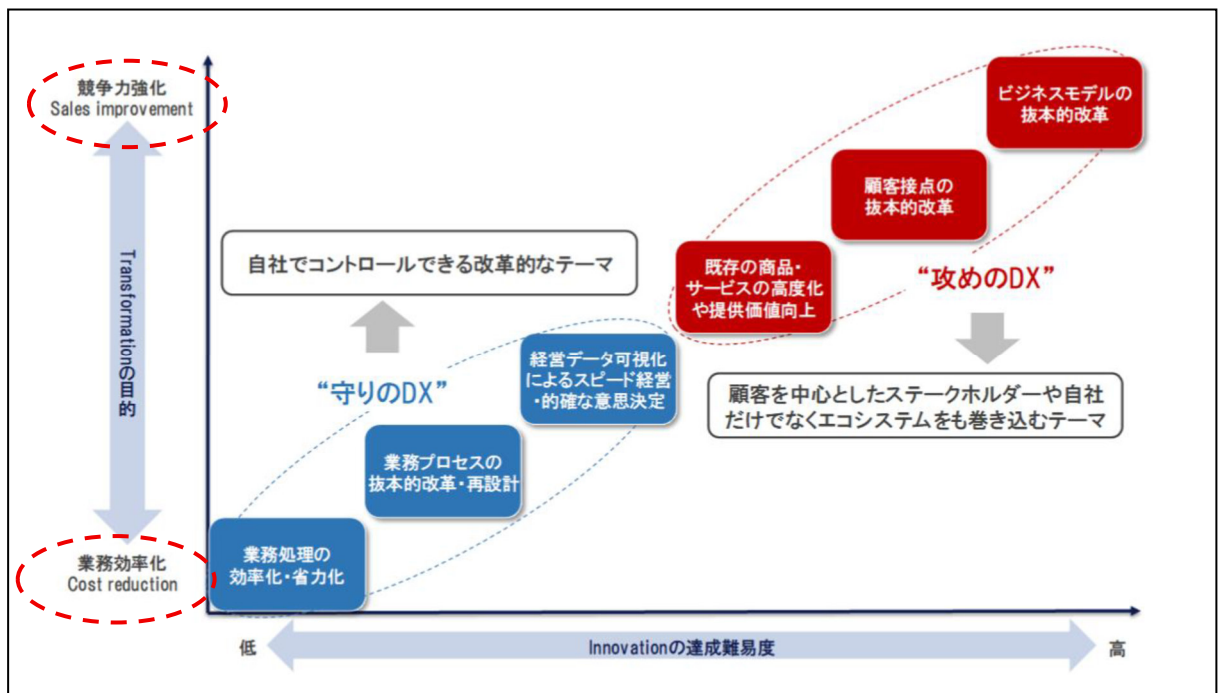
- ◇ ビジネスモデルの抜本的改革
- ◇ 顧客接点の抜本的改革
- ◇ 既存の商品・サービスの高度化や提供価値向上
- ◇ 「顧客エクスペリエンス」の変革を図ることで、価値を創出する。

✓ 「守りのDX」

(日本は守りのDXに取り組んでいる企業が圧倒的に多い)

➤ 社内志向

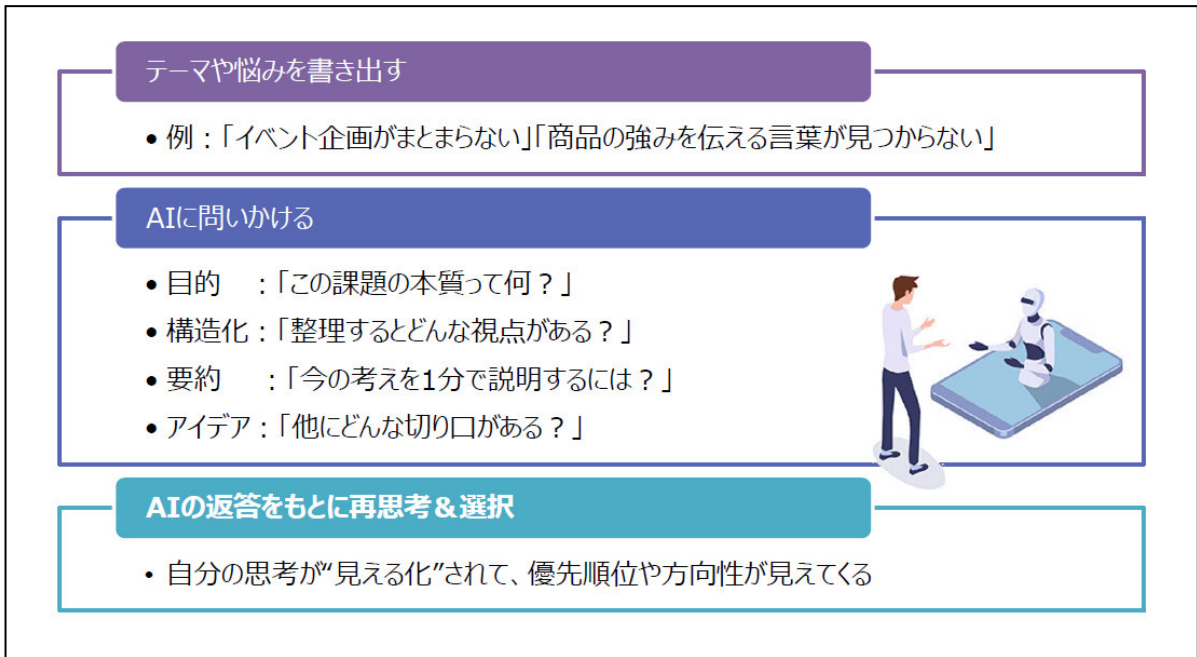
- ◇ 業務プロセスの改善
- ◇ ビジネスの可視化
- ◇ 業務処理の効率化・省力化



AI をどう使っていくか？

■ AI を活用した思考整理の方法

- ✓ 思考の「外部脳」として AI を使う。



■ AI ツール


- ✓ それぞれ AI の得意分野を活用しよう。

検索	マーケティング	スライド作成	議事録	生産性向上	自動化
ChatGPT Copilot Gemini perplexity ABACUS.AI	Simplified AdCreative.ai style Pencil adcopy	Gamma beautiful.ai イルシル SlidesAI decktopus	tl;dv Fireflies Noty.ai Synclog Ai:repoto	Notion personal.ai TinyWow Merlin	make Airtable zapier bardeen Xembly
文章生成	動画生成	コピーライティング	ロゴ生成	画像生成	<p>それぞれの得意分野を活用しよう</p>
ChatGPT Gemini Claude TRACT SEO	Ai-SOLa runway HeyGen invideo	Rytr copy.ai Writesonic wordtune Wondershare Filmora	namecheap Looka DESIGNS.AI STOCKIMG.AI BRAND MARK	Canva Midjourney Segmind fotor Stable Diffusion	

■ AIの複数、重ね合わせ利用

- ✓ 日本の中小企業はツールやベンダーを統一化する傾向が強い。
- ✓ AIの独自性を活かしきれていない。

プレゼン準備を効率化	<ul style="list-style-type: none"> • テーマや構成案のプレスト (ChatGPT / Claude / Gemini) • スライド構成の草案づくり (ChatGPT / Claude / Gemini) • ターゲット別の伝え方を提案してもらう (ChatGPT / Perplexity / Copilot)
原稿・スライド作成の補助	<ul style="list-style-type: none"> • 原稿作成支援 (ChatGPT / Claude / Notion AI) • グラフや図の説明文生成 (ChatGPT / Perplexity / SlidesAI)
プレゼン練習・改善用	<ul style="list-style-type: none"> • 想定Q&Aの洗い出しと回答例作成 (ChatGPT / Claude) • 話し方の原稿に「間」や「抑揚」などもアドバイスさせる (ChatGPT / HeyGen / Runway)
視覚資料の生成	<ul style="list-style-type: none"> • 図解やイラストの生成 (Midjourney / DALL·E / Stable Diffusion / Fotor) • スライドデザインのヒントやテンプレ案をAIに相談 (Canva / Beautiful.ai / Gamma)
PowerPoint形式での出力	<ul style="list-style-type: none"> • Gamma、Beautiful.aiなどでのAIでスライドを作成・編集・共有できる (Gamma / Beautiful.ai / Decktopus / SlidesAI) • PowerPoint形式 (.pptx) でのエクスポートも可能 (Beautiful.ai / Decktopus / Gamma)



■ 3つのAIキーワード


✓ エッジAI

- エッジデバイス (スマートフォンやセンサーなど) 上で AI 処理を行う技術
- 高速でリアルタイムでの判断が可能

覚えておきたいAIキーワード (1) エッジAI


スマートフォンやセンサーなどのエッジデバイス上でAI処理を行う技術です。クラウドにデータを送信せず端末側で直接データを処理するため、高速でリアルタイムな判断が可能になり、通信コストの削減やプライバシー保護にもつながります

クラウドAI AI処理をクラウドで行う



画像引用元: https://www.tjsys.co.jp/focuson/edge-ai-approach/index_j.htm

エッジAI AI処理をエッジで行う



✓ AI エージェント

- 2026 年は「AI エージェント元年」
- これからは、「知的労働者をいかに AI エージェントに置き換えていくか」という方向性

覚えておきたいAIキーワード (2) AIEージェント

AIEージェントとは、人間の指示に基づいて自律的に判断し、複数のタスクを連続して実行できるAIシステムのことです。従来のAIが「単発の質問に対して答える」だけだったのに対し、AIEージェントは「目標を理解し、行動を組み立てて結果を出す」ことができます

来月の売上予測レポートを作成して

過去のデータを収集し、分析を行い、グラフを作成し、レポートをまとめる

AIが「調べる・判断する・実行する」を一人の秘書のように自律的にこなす存在

画像引用元: <https://www.knowliful.ai/plus/ai-agent-benefits-usecase/>

✓ エージェントAI

覚えておきたいAIキーワード (3) エージェントAI

エージェントAIとは、AIが自ら状況を判断して複数のタスクを遂行する「自律型AI」です。従来のAIがルールに従うのに対し、目的達成のために“考え、行動する”のが特徴です

AGENTIC AI

MODEL REGISTRY (モデル登録)

AI INFERENCE SERVICE (推論サービス)

AI Agents (複数のエージェント)

ツール連携

Security events, Incident reports, Cybersecurity procedures

複数のLLM (大規模言語モデル) と外部データを連携し、自律的にタスクを遂行するAIネットワークである

画像引用元: <https://research.aimultiple.com/agnostic-ai-cybersecurity/>

■ 「AI エージェント」と「エージェント AI」の比較

AIEージェントとエージェントAIの違い

AIEージェントは特定の、エージェントAIは自由です。両者の違いをまとめると下記のようになります

特徴	AI エージェント 	エージェント AI 
主な役割	代行してタスクを実行	自ら意思決定して行動
自律性	限定的（定義された指示に従う）	高度（自分で考えて動く）
適応性	決まったタスク範囲をこなす	新しい状況に学習しながら対応
意思決定	ルールやプログラムに基づく	状況を評価、分析して判断
主体性	ユーザーからの依頼を待つ	自ら問題や解決策を探る
データ要件	事前に人間が整理したデータに基づく	必要な情報を自分で取りに行く
活用例	<ul style="list-style-type: none"> 事務作業の効率化 顧客対応の質向上 営業支援 	<ul style="list-style-type: none"> 意思決定支援や戦略立案 業務最適化や自動実行 知識活用や学習支援
例えるなら	秘書	自律型マネージャー

■ NotebookLM

AI (Gemini) 搭載のNotebookLM

Googleが開発したAI搭載のノートツールです。ChatGPTをはじめとする生成AIは大量の学習データから情報を得てくるので、事実確認しづらいですが、NotebookLMは自分で追加したものしか参照されないから、信用できる情報をもとにAIが分析してくれます

一般的なAI

大量の学習データ
を
もとにAIが分析

NotebookLM 

ユーザーがアップロードした
情報のみ
を
ソースとしてAIが分析

どっちがいいではなく、
両方を使うとより良いですよ



NotebookLMは、資料が不完全だと誤った内容になりやすい

■ NotebookLM と一般的な AI の比較

- ✓ Google が開発した AI 搭載のノートツール
- ✓ ChatGPT をはじめとする生成 AI は大量の学習データから情報を得てくるので、事実確認しづらいが、NotebookLM は自分で追加したものしか参照されないから、信用できる情報をもとに AI が分析してくれる。

一般的なAI

大量の学習データ
を
もとにAIが分析

NotebookLM

ユーザーがアップロードした
情報のみ
を
ソースとしてAIが分析

どちらがいいではなく、
両方を使うとより良いですよ

NotebookLMは、資料が不完全だと誤った内容になりやすい

■ NotebookLM の活用

- ✓ 印刷技術懇談会の活動をまとめてみる
- ✓ Notebook LM の画面（下図）
- ✓ ソースに印刷技術懇談会の HP の URL を持ってくる。
 - 入力内容（プロンプト）に応じて、チャットの所に印刷技術懇談会についての概略、歴史、活動内容等が整理されて記載される。

Printing Technology Forum: Five Decades of Industry Evolution

ソース

印刷技術懇談会

チャット

Printing Technology Forum: Five Decades of Industry Evolution

印刷技術懇談会は、次世代を担う印刷技術の向上と知識の共有を目的とした、歴史ある継続的な勉強会です。1976年の発足以来、専門家を招いた例会を月に一度のペースで重ね、2026年には創立50周年という大きな節目を迎えます。取り扱うテーマは、UVオフセット印刷などの伝統的な技法から、最新のAI技術やマーケティングまで多岐にわたります。もともとは大学の卒業生が中心でしたが、現在はリカレント教育の場として、業界の壁を越え幅広く参加者を募っています。主に都内の会場で定期的に開催されるこれらの講演を通して、印刷産業の将来の展望を多角的に発信し続けています。

Studio

音声解説

スライド資料

動画解説

マインドマップ

レポート

フラッシュカード

クイズ

インフォグラフィック

Data Table

印刷技術懇談会：半世紀の歩みと知...
6日前

印刷技術懇談会：会場の変遷と学び...
6日前

印刷技術...
6日前

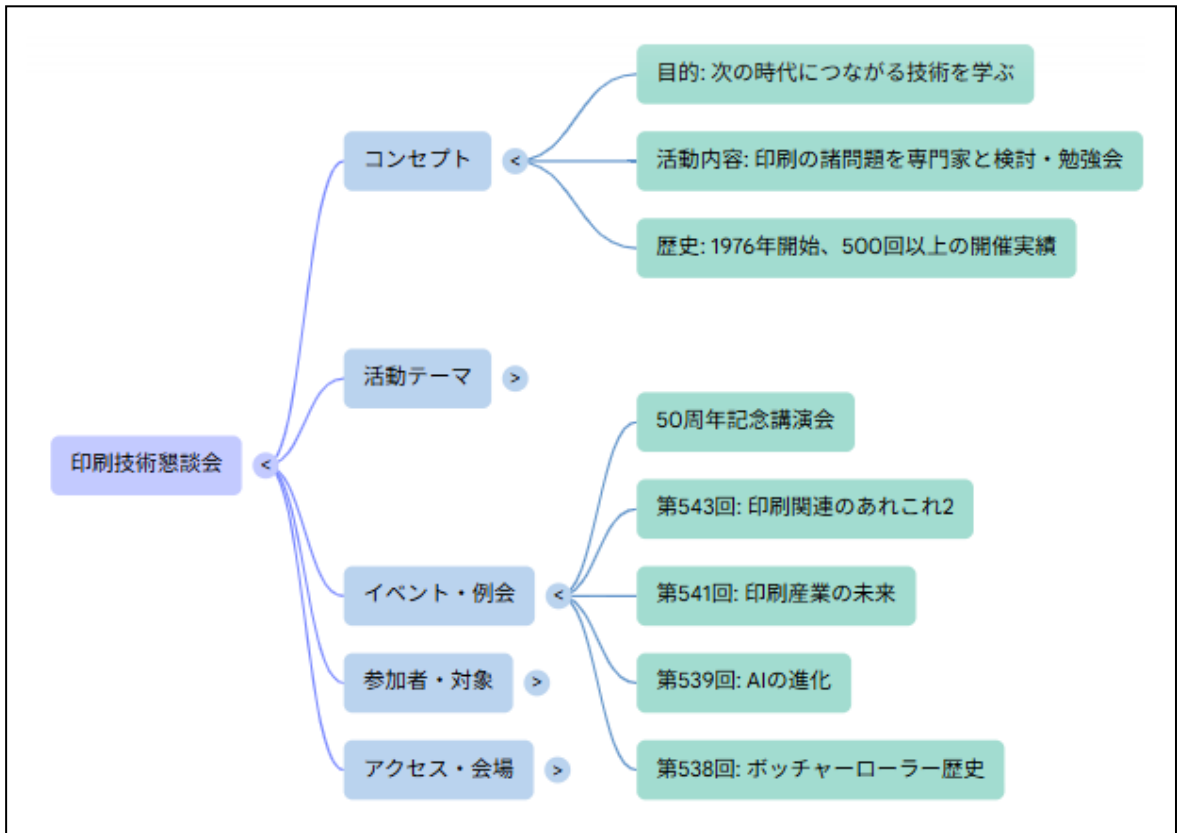
■ NotebookLM からの出力の種類

- ✓ 音声解説
- ✓ **動画解説**
- ✓ **マインドマップ**
- ✓ レポート
- ✓ フラッシュカード
- ✓ クイズ
- ✓ インフォグラフィック
- ✓ スライド資料
- ✓ Data Table



■ 印刷技術懇談会に関する出力の例

- ✓ マインドマップ (下)
- ✓ 動画解説 (右)
 - 独自のイラストやデザインなども作ってくれる。(専門家の力を借りなくても作成可能 ⇒ 専門家の仕事の浸食?)



■ NotebookLM の活用事例

議事録を自動作成

- 録音したデータや文字お越しをソースに追加
- 「要点をまとめて」「決定事項、未解決事項、次回ToDoをまとめて」などと依頼

商談や社内会議の振り返り

- これまでの録音や文字起こし、議事録のデータをすべてソースに追加
- 「お客様の要望をまとめて」「商談の経緯を整理して」などと依頼
- 担当者変更時の引継ぎも楽々

社内チャットボットの構築

- 複数の社内資料をソースに追加
- 社内にNotebookLMと使い方を共有
- 「引っ越した場合の手続き方法は？」「お客様へお中元を贈るには？」と質問してもらえば、ソースをもとに応えてもらえるので、教育の手間を省ける

情報収集の効率化

- 検索AI（ChatGPT・Gemini・Perplexityなど）で情報収集
- 集めた記事やテキストをNotebookLMのソースに追加
- 「複数の資料に共通して書かれていることを教えて」と依頼すれば、ポイントを押さえられる

スライド作成

- 検索AI（ChatGPT・Gemini・Perplexityなど）で情報収集
- 集めた記事やテキストをNotebookLMのソースに追加
- NotebookLMに「プレゼン資料として要点を10枚にまとめて」と依頼（プレゼン相手や所要時間などの情報も加えると、より精度が高まる）
- 出来上がった内容をスライド生成AI（Gamma・イルシルなど）でスライド作成

記事・動画の台本作成

- 検索AI（ChatGPT・Gemini・Perplexityなど）で情報収集
- 集めた記事やテキストをNotebookLMのソースに追加
- NotebookLMのブリーフィング・ドキュメント（要約）をコピー
- 文章生成AI（ChatGPT・Gemini・Perplexityなど）に貼り付けて記事や台本作成を依頼

■ n8n (エヌエイトエヌ)

今、話題なのは、n8n (エヌエイトエヌ)

n8nとはオープンソースのノーコード/ローコード型ワークフロー自動化ツールです。Google SheetsやSlack、メール、データベースといった日常業務で使うサービスに加え、ChatGPTなどのAIとも連携し、業務プロセスを自動化できます

n8n

= node automation (ノーデメーション)

node (部品) + automation (自動化)

node automation (ノーデメーション)

8文字だから、n8n

まだ日本では認知が遅れていますが、海外ではすでに「これなしでは仕事にならない」と言われるほど重要なツールになっています



n8nでできること

「人がやらなくていい判断・転記・確認」は全部、n8nに任せられます

No	業務内容	困っていること	n8nでの自動化フロー	実際の効果
1	お問い合わせ自動振り分け	メール確認が手間・対応漏れが出る・返信が遅い	フォーム/メール受信→内容分析→担当者自動判定→Slack/LINE通知→履歴保存	返信30分→30秒・対応漏れゼロ・履歴自動蓄積
2	新規顧客の自動登録	手入力が面倒・入力ミスが出る・登録が遅れる	フォーム受信→顧客情報抽出→CRM自動登録→担当通知→初回メール送信	入力作業ゼロ・ミスゼロ・即フォロー可能
3	請求書の自動作成・送付	請求書作成が手作業・請求漏れが不安・処理に時間がかかる	売上データ取得→請求書PDF生成→メール送付→Drive保存→会計連携	請求自動化・請求漏れゼロ・会計も自動
4	営業進捗の自動更新	更新忘れ・状況が分からない・フォロー漏れ	顧客メール受信→内容判定→ステータス更新→次アクション提示→週次レポート	常に最新状況・フォロー漏れゼロ・営業可視化
5	予約リマインド自動送信	連絡忘れ・当日キャンセル多発・手間がかかる	予約登録→2日前メール→当日SMS→来店後お礼メール	連絡完全自動・顧客満足度向上・キャンセル激減
6	毎朝の自動レポート作成	毎日確認が大変・グラフ作成が面倒・異常に気づけない	毎朝定時実行→各種データ取得→前日/前週比較→レポート作成→Slack配信	確認時間ゼロ・異常を即検知・意思決定が速い
7	在庫不足の自動検知	在庫切れ発生・発注判断が難しい・管理が大変	定期在庫チェック→閾値判定→Slack通知→発注書作成→発注量提案	品切れゼロ・適正在庫維持・無駄削減
8	勤怠データ自動集計	月末集計が大変・計算ミスが不安・給与計算に時間	勤怠取得→残業/休日計算→超過チェック→給与データ作成→会計連携	ミスゼロ・集計自動化・法令違反防止
9	広告データ自動収集	毎日確認が大変・Excel整理が面倒・中身が見えない	定時実行→広告データ取得→指標計算→前日比較→Slack通知	即データ把握・効果が一目・広告費削減
10	ファイル整理の自動化	探す時間が長い・命名ルール不統一・紛失が不安	ファイル検知→種類/日付振り分け→自動バックアップ→アーカイブ→容量管理	検索60%短縮・バックアップ安心・常に整理状態

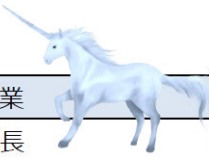
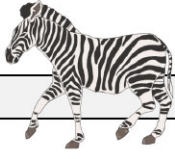
なぜ、ローカル・ゼブラ企業が

■ 生き残る地域の5つの条件

- ✓ 以下の要素が無くなった地域から減っていく
 - **食料** ⇒ 低い食料自給率
 - **エネルギー** ⇒ 低いエネルギー自給率
 - **流通** (物の流れ、人の流れ、インターネット)
 - **医療** ⇒ 医師不足の問題
 - **教育** ⇒ 進む学校の統廃合
- ✓ 地域も上記が満たされないと流出人口が増えていく。

■ ゼブラ企業とは

- 以下の2つを共に行う企業
 - ◇ 白：**地域貢献**
 - ◇ 黒：**経済活動**
- **群れをつくる**：地域の関係者・企業との連携

<h2>ユニコーン企業とゼブラ企業</h2>		
ゼブラ企業は、2017年に米国の女性社会起業家4人が提唱した、社会課題解決と経済成長の両立を目指す企業概念。ゼブラ企業は、ユニコーン企業とは正反対の企業として誕生しました		
		
目的	ユニコーン企業 飛躍的な成長	ゼブラ企業 持続的な繁栄
成果の受益者	個人、株主	公共、コミュニティ
評価の基準	定量的	定性的
方法	競争	協力
結果	独占	共存
優先順位	ユーザーアクション (顧客がどう動くか)	ユーザーサクセス (顧客をどう成功させるか)
価値観	「ゼロサム」 (自分の利益は他者の損失)	「ウィンウィン」 (他者の利益は自分の利益)

■ なぜ今、ローカル・ゼブラ企業なのか？

- ✓ 人口減と税収低下
 - 日本の人口減少の問題あり。
 - 税収の低下により、国も地方自治体も公共のサービスを維持できない時代になった
- ✓ 地域で「**一番のプレゼンス (存在感)**」を持つ
 - 行政に代わって、地域の課題を解決するとい方向性
 - 行政は民間に委託したい。
 - 行政から「頼られる企業」になることがポイント

- 地域で一番のプレゼンス（存在感）を持った企業になることが重要
- ✓ 地域のニーズ発掘と経済の循環
 - 地域の新しいニーズを発掘し、地域の人が主体となって稼ぎ、稼いだ金を地域に投資する。
- ✓ デジタルツールの活用
 - デジタルツールを使いながら進めていく。

■ **ローカル・ゼブラ企業のポイント**

- ✓ 企業の生き残り戦略としてのローカル・ゼブラ



■ **印刷会社とローカル・ゼブラとしての地域活性**

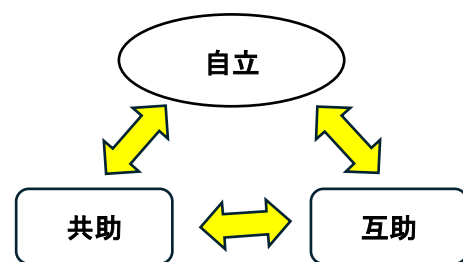
- ✓ 印刷会社は、幅広い「顧客リスト」を保有しているという優位性あり。
(行政、企業、教育機関、金融機関、医療機関。個人など)
- ✓ 印刷会社は、「商流」を握ることができる。
- ✓ 印刷会社が地域の AI エージェントになり地域のニーズと専門業者を結びつけるビジネスを展開できる可能性あり。
- ✓ 印刷会社自身が、AI エージェントを使って DX を進めながら、ローカル・ゼブラとして地域活性を進めるという展望

■ 四つの「助」

- ✓ 「自助」
 - 自分のことは自分でやる。
- ✓ 「公助」
 - 生存が脅かされる事態に対応・発動
 - ◇ 災害対応、生活保護
- ✓ 「共助」
 - 利益、ルール、仕組みがあつての繋がり と 助け合い
 - ◇ 会社、年金制度
- ✓ 「互助」
 - 感情で繋がった時の助け合い
 - ◇ 家族、PTA

■ 「共助」と「互助」と「自立」の関係

- ✓ 自立は共助と互助の上に立っているもの
- ✓ 自立している人とは
 - 「助けてください」と言える関係
 - 「サポートします」と言える関係
- ✓ 一緒にやった方が価値は上がる場合あり。
- ✓ この関係性を踏まえずに「自立」「自助」だけを持ち込んで共同体が破壊され、混乱を生じる。
- ✓ 教育でこの点をしっかり教えているだろうか？



■ 自立と自律

- ✓ 「**自律**」(自分で自分を律すること)が出来て初めて**自立**、**自助**が成り立つ。

■ 何のためにAIを使うのか？

- ✓ 「自分の所属している組織、団体が良くなるように」という思いで、以下の区別をして取り組む必要あり。
 - 「**変えていいもの**」
 - ◇ **技術** ⇒ **ここにAIを使う**
 - ◇ スマートシティー化など
 - 「**変えてはいけないもの**」
 - ◇ 地域の風景、情景、憧憬 (地域の普遍的価値)

■ AI と教育

- ✓ 「共助」「互助」「自立」の関係性を理解させる教育の必要性
- ✓ AI使用の場面を考えさせる教育の必要性
 - 何にでもAIを使うという間違い (技術に溺れる状態) ⇒ AIは「技術」に使う。